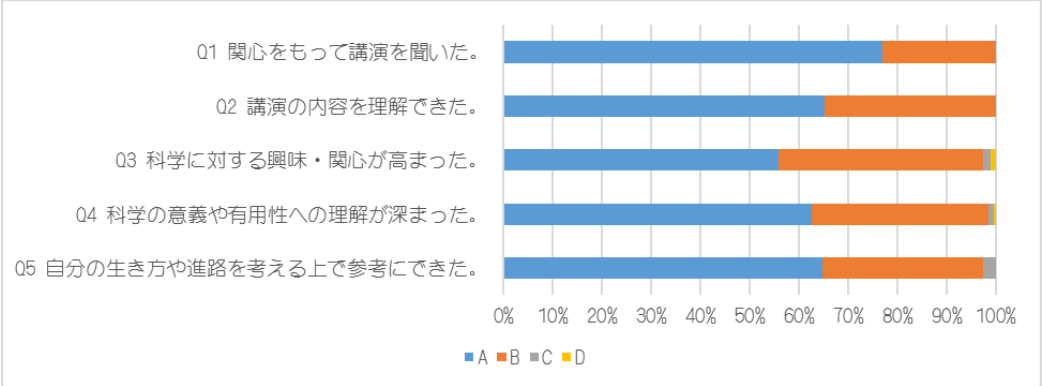
平成２８年度　長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名　称	キャリアプラン講演会
日　時	平成 29 年2月7日(火)５，６限
会　場	小体育館
対　象	２年普通科理系・理数科生徒　207 人
目　的	科学分野における若手の研究者等との交流の場面を設け，ロールモデル，キャリアモデルを提供することで，学びへの意欲や進路意識を高める。
内　容	講師：磯部　忠昭　様 国立研究開発法人理化学研究所　仁科加速器研究センター 専任研究員 演題：科学者になるという事　　～世界最先端の研究と未来～ 内容：高校から大学，大学院を経て研究所に勤務するまでの道のり， 研究者の一日，海外の研究者との共同研究の様子， 高校の時に学んだ各科目が現在どう生きているか，など

科学者になるまでの道のりを紹介

研究内容に関するクイズを出題

アンケート評価	Q1 関心をもって講演を聞いた。 Q2 講演の内容を理解できた。 Q3 科学に対する興味・関心が高まった。 Q4 科学の意義や有用性への理解が深まった。 Q5 自分の生き方や進路を考える上で参考にできた。 ※４段階評価　Ａ：あてはまる　Ｂ：ややあてはまる Ｃ：ややあてはまらない　Ｄ：あてはまらない

<table>
<tr><td></td><td>


・Q5「自分の生き方や進路を考える上で参考にできた」は，97%以上の生徒が「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えた。</td></tr>
<tr><td>感想など</td><td>・今まで「科学者になる」というのはとても漠然とした夢だと思っていました。そこに至るプロセスを説明していただいて，なるほど，こんな経験をしたひとが科学者という職に就くのか，と納得しました。
・研究は今すぐには役立たないが，10 年，20 年，あるいは 100 年後への投資であり，その基礎研究こそが未来を創っている。それは今まで思いもしなかった考え方であり，自分もその未来をつくのに加担したいと思った。そのために今しっかりと勉強して道が開けるようにがんばりたい。
・何をするにあたっても，何も成果が得られないことや失敗するという可能性は考えられるが，それを恐れてトライしないのは結果的に損ということがわかった。失敗から教訓が学べる。
・課題研究においても失敗から学んだり，成果を焦らずに取り組んだりすることが大切だと思った。
・スライドに映っていた人の半分くらいが外国の方だったのを見て，社会に出たら英語は絶対必要だと感じたので気合いで頑張りたい。
・日本史や世界史などについて外国の方と話せるというのは，コミュニケーションをとるための一つの方法にできると思いました。大学受験へ向けてというだけでなく，今から将来へ向けてあらゆる分野への関心を持つことや学習しておくことは大切だと知ることができました。</td></tr>
</table>